

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
平成 24 年度 事業報告
(平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで)

I 事業概要

平成 24 年度事業計画に基づき、心身のケアや地域社会の安全構築等に資する「安全で安心できる社会」の実現に寄与する以下の事業を実施した。

特に、平成 23 年度で上智大学グリーンケア研究所の公開講座『「悲嘆」について学ぶ』が終了したことを受け、主催事業として連続講座『「いのち」を考える』を新規開催するとともに、公募助成や「救急フェア」の充実など、地域との連携に重点を置いた事業を展開した。

1. 心身のケアに関わる事業

(1) グリーンケアに関わる人材養成講座への助成（上智大学グリーンケア研究所の寄付講座）

誰もが安心して悲嘆等に伴うところのケアを受けられる社会を目指し、グリーンケアに関する専門知識・技能を持って実践に携わる人材や地域社会においてグリーンケアを提供する市民ボランティアを養成している上智大学グリーンケア研究所の人材養成講座に対し、寄付助成を行っている。

同講座はステップアップ方式となっており、平成 24 年度は「グリーンケア基礎コース」（グリーンケアの基礎知識や基礎的な対人援助スキルを習得）、「グリーンケアボランティア養成コース」（グリーンケアに関わる臨床現場で必要な知識、技術を習得）、「グリーンケア専門コース」（グリーンケアとスピリチュアルケアの実習と演習）の 3 つのコースが開設され、各コース合計で 72 名が修了した。

(2) 心身のケアに関する啓発活動

①連続講座『「いのち」を考える』の開催

平成 23 年度で終了した上智大学公開講座『「悲嘆」について学ぶ』の精神を踏まえつつ、平成 23 年 3 月の東日本大震災や 9 月の台風 12 号がもたらした未曾有の事態に直面したことを受け止め、新規主催事業として、死や悲嘆、グリーンケアといったテーマはもとより、多様な観点から「いのち」に焦点を当て、ともに考える 1 期 10 回の連続講座を 2 回にわたり開講した（参加者数 第 1 回：のべ約 2,850 名、第 2 回：のべ約 3,450 名）。

・第 1 回連続講座 開催概要（会場：関西国際大学尼崎キャンパス、開催時間：18:30～20:00）

日付	講師	
5/ 9(水)	柏木 哲夫	金城学院学院長、淀川キリスト教病院名誉ホスピス長
5/16(水)	窪寺 俊之	聖学院大学大学院教授、元関西学院大学神学部教授
5/23(水)	鎌田 東二	京都大学こころの未来研究センター教授
5/30(水)	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事
6/ 6(水)	林田 吉司	あしなが育英会東北事務所長
6/13(水)	上野 創	朝日新聞、「がんと向き合って」著者
6/20(水)	永田 萌	イラストレーター、絵本作家
6/27(水)	山形 謙二	神戸アドベンチスト病院院長
7/ 4(水)	西村 隆	A L S 患者、「神様がくれた弱さとはほほえみ」著者
7/11(水)	若林 一美	立教女学院短期大学学長、ちいさな風の会世話人

・第2回連続講座 開催概要（会場：関西国際大学尼崎キャンパス、開催時間：18:30～20:00）

日付	講師	
10/ 3(水)	柳田 邦男	作家、評論家
10/10(水)	鷲田 清一	哲学者、大谷大学教授、前大阪大学総長
10/17(水)	土師 守	「淳」著者
10/24(水)	高 史明	作家、評論家
10/31(水)	上田 紀行	東京工業大学リベラルアーツセンター教授
11/ 7(水)	高木 慶子	上智大学特任教授、上智大学グリーンケア研究所所長
11/14(水)	梶田 叡一	兵庫教育大学名誉教授（前学長）
11/21(水)	村上 典子	神戸赤十字病院心療内科部長
11/28(水)	高木 慶子	上智大学特任教授、上智大学グリーンケア研究所所長
12/ 5(水)	高木 慶子	上智大学特任教授、上智大学グリーンケア研究所所長

※11/7(水)は青木 新門（作家・詩人）氏、11/28(水)は日野原 重明（聖路加国際病院理事長）氏の予定であったが、高木 慶子 氏に変更

② 「いのちのセミナー」の開催

「いのち」をテーマとした講演を通して、私たち一人ひとりが「いのち」と向き合い、「生きる力」を得ることができるような場として、従来の「こころのセミナー」を「いのちのセミナー」に改め開催した（参加約 550 名）。

<実施概要>

日 時：平成 25 年 3 月 16 日（土） 13 時 30 分～16 時 00 分

場 所：神戸新聞松方ホール

内 容：『神戸いのちの電話の活動報告』 神戸いのちの電話事務局長 正岡 茂明

『講演「いのちの原点回帰～東日本大震災・復元ボランティアからみた いのち」』

復元納棺師 笹原 留似子

2. 地域社会の安全構築に関わる事業

(1) 「安全セミナー」の開催

地域社会における安全構築の重要性を踏まえ、企業や行政活動、市民生活における安全確保や事故防止に資するテーマを取り上げ、「安全セミナー」を開催している。平成 24 年度は、これまでのセミナーでも参加者の関心・ニーズが高い「ヒューマンファクター」をテーマに取り上げセミナーを開催した（参加約 650 名）。

<実施概要>

テーマ：『「ヒューマンファクター」から考える安全』

日 時：平成 24 年 8 月 27 日（月） 13 時 30 分～16 時 30 分

場 所：あましんアルカイックホール・オクト

内 容：講演「人が守る安全を考えるー安全マネジメントの視点から」

早稲田大学理工学術院教授 小松原 明哲

講演「組織の中で人を活かし、人をつなぐーパンドラの箱の物語」

立命館大学スポーツ健康科学部准教授 山浦 一保

(2) 初期救護の重要性に関する普及啓発活動の実施

駅ご利用者や地域住民の方々に手軽にAEDの使用や心肺蘇生法、駅ホームや踏切の非常ボタンなどを実体験いただくことで、広く市民による初期対応や初期救護（ファーストエイド）の重要性を啓発し、市民の自助、共助意識を涵養するため、JR西日本や消防、NPO、地元自治会等と連携・協力し「救急フェア」等を開催している。平成24年度は、JR西日本の近畿2府4県の12駅及び新幹線3駅において開催し、延べ約4,500名の方々に参加いただいた。

5/19	三田駅	5/26	京都駅	6/2	三ノ宮駅	6/16	和歌山駅
7/27	新幹線広島駅	8/3	新幹線小倉駅	8/4	新幹線博多駅		
9/8	宝塚駅	9/9	天王寺駅	9/9	長浜駅	9/17	奈良駅
10/6	高槻駅	10/20	伊丹駅	10/27	大阪駅	11/18	尼崎駅

3. 「安全で安心できる社会」の実現に関わる事業

(1) あしなが育英会への助成

事故や災害、病気等様々な理由で親をなくした子どもたちへの心のケア活動の一環として取り組んでいるあしなが育英会が主催する「高校奨学生のつどい」及び小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」に対し、寄付助成を行っている。平成24年度は、関西北陸地区における「高校奨学生のつどい」が8月8日から13日まで、358名の奨学生とリーダー役や運営スタッフとしての先輩奨学生たちが参加し開催された。また、小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」が、8月25日から27日まで、60名の子どもたちと学生ボランティアの方々が参加し開催された。

(2) 関西いのちの電話及び神戸いのちの電話への助成

心のケアのより一層の充実・増進を図るため、福知山線の沿線地域で市民からの電話相談事業に取り組んでいる関西いのちの電話及び神戸いのちの電話における電話相談員のスキルアップやメンタルケアに関する活動に対し、寄付助成を行っている。平成24年度は、各団体において専門家による実践的な知識、スキルの向上に向けた教育、研修やメンタルケアが行われた。

(3) 地域における各種活動等に対する支援協力

当財団では上記のほか、財団の設立趣旨に合致し公益性や社会的必要性が高いと認められる活動に対し協賛を行っている。平成24年度は、京阪神に拠点のある遺族会のネットワーク化を目指した遺族会の交流会に対して協賛を行った。

4. 公募助成事業

(1) 「第3回東日本大震災に関する活動助成」及び「平成25年度公募助成（活動・研究）」の実施

当財団では、設立初年度より、事故・災害が起こった際の備えやその後のケアに関連する活動・研究を対象とした公募助成を実施している。平成24年度は、次の2つの公募助成を実施した。

① 「第3回東日本大震災に関する活動助成」

東日本大震災の発生後3回目となる、被災地及び被災者の方々への支援・救援活動や心のケア等の活動を対象とした助成事業の公募を実施した。発災直後に行った「第1回東日本大震災に関する活動助成」への応募総数57件に匹敵する応募が寄せられ、審査の結果、当初計画していた助成金総額500万円を超える544万円の助成を行った。

[実績]

応募件数：56件、助成件数：12件、助成金額：544万円

②「平成 25 年度公募助成（活動・研究）」

平成 24 年度は、これまで 3 回にわたり別々実施してきた「東日本大震災に関する活動助成」に平成 23 年台風 12 号の被災地・被災者支援に関する活動を特別枠として盛り込み、平成 25 年度に行われる活動や研究を対象とした助成事業の公募を実施した。その結果、助成の趣旨に合致する大変質の高い応募が多数寄せられたため、当初計画していた助成金総額 3,500 万円を超える 4,054 万円の助成を行った。

平成 25 年 3 月には、助成対象団体や研究者の方を対象に公募助成贈呈式を開催するとともに、助成先相互のネットワークづくりを目的に交流会を実施した。

[実績]

	応募件数	助成実績	
		件数	金額
活動助成	80 件	23 件	1,798 万円
活動助成（特別枠）	57 件	12 件	881 万円
研究助成	27 件	7 件	1,375 万円
計	164 件	42 件	4,054 万円

(2) 活動助成報告会

①東日本大震災支援活動報告会の開催

当財団と助成先及び助成先相互で活動に関して意見交換する場として交流会を開催した（対象団体 13 団体、聴講者約 50 名）。

<実施概要> 日 時：平成 24 年 9 月 1 日（土） [報告会] 13 時 00 分～18 時 00 分／ [意見交換会] 18 時 00 分～19 時 00 分 場 所：ホテルコムズ大阪 基調講演：「災害ボランティア～東日本大震災を経験して」 大阪大学大学院人間科学研究科教授 渥美 公秀

②活動助成報告会の開催

助成活動の成果の社会的還元や助成先同士の交流などを目的に、平成 23 年度に実施された助成活動の成果発表を行う「活動助成報告会」を開催した（発表 10 団体 16 名、聴講者 33 名）。

<実施概要> 日 時：平成 24 年 10 月 30 日（火） [報告会] 15 時 00 分～18 時 00 分／ [意見交換会] 18 時 00 分～19 時 00 分 場 所：ホテルグランヴィア大阪

II 財団運営に関わる事項

1. 機関運営（評議員会、理事会、事業審査評価委員会の開催）

(1) 評議員会

開催回数：2回

決議事項等：平成23年度計算書類等の承認、評議員の選任、理事の選任 等

(2) 理事会

開催回数：4回

決議事項等：理事長による業務執行状況等のほか、以下の事項について決議を行った。

平成23年度事業報告及び計算書類等の承認、事業審査評価委員会委員及び重要な使用人の選任、評議員会の招集、代表理事の選定、「平成25年度公募助成（活動・研究）」の基本方針及び助成先の承認、平成25年度事業計画及び収支予算の承認、基本財産の運用基本方針の承認 等

(3) 事業審査評価委員会

開催回数：3回

審議事項等：理事長からの諮問に基づき、以下の事項について審議を行い、理事長へ答申を行った。

「第3回東日本大震災に関する活動助成」の助成先の審査、平成23年度助成事業の実績・成果等の確認評価、財団主催事業の実施に関する指導・助言、「平成25年度公募助成（活動・研究）」の募集内容及び助成先の審査 等

2. その他

(1) 基本財産の運用

基本財産20億円は、西日本旅客鉄道株式会社の無担保社債（20年物）により10億円、国債（20年物）により10億円を継続して運用を行った。

(2) 広報活動および情報公開

当財団のホームページにおいて、財務資料等の基本情報の開示や財団事業の実施概要、実施結果等の公表を行った。また、事業実施時におけるプレス発表のほか、助成先情報を含めた報道関係者に対する定期的な情報発信、JR主要駅へのポスター・パンフレットの掲出、財団紹介用パンフレットの製作・配布、広報誌「Relief」の発行（平成24年4月、7月、10月、平成25年1月）など、財団及び財団事業の認知度向上のための広報活動に努めた。